

# 長野県医学図書ネットワークの発足により

## 長野県病院図書室アンケート

前澤好広<sup>1)</sup>、中村雅子<sup>2)</sup>、佐々木絹江<sup>3)</sup>、小林紀子<sup>4)</sup>

<sup>1)</sup>長野赤十字病院、<sup>2)</sup>大阪府立母子保健総合医療センター、<sup>3)</sup>佐久総合病院

<sup>4)</sup>飯山赤十字病院

長野には、以前より長野県内の病院図書館のネットワークを望む諸先輩がたの声は有りましたが。全国都道府県の中で四番目の広さ南信の飯田市から県庁所在地の長野は東京へ行くより時間がかかります。また地形が大きな障害となっていました。県歌「信濃の国」に歌われているように、飛騨山脈、赤石山脈、三国山脈、関東山地に周囲を囲まれ、県内は木曾山脈、八ヶ岳、筑摩山地により分断されており、生活圏は、大きくは、四つの盆地に分かれています。それ以上に分断され、その間を一級河川の、千曲川、梓川、天竜川、木曾川が流れ、常に峠を越え、橋を渡らないと隣の生活圏にはいけない状態でした。これが県内の交流を妨げる要因になっており保健医療計画にも大きな影響を与えていました。

これは長野ということだけでなく、日本の風土、知的部門基本部門への投資において、図書室つきまして、医療事業において目に見えるに収入がないため整備、設置がおくられていました。

病院機能評価において、図書室の設置、時間の利用が求められるようになり、既存の図書室の見学がおこなわれ図書室の整備が進み始めました。病院図書室の担当者の方も近畿病院図書協議会、病院図書室研究会、日赤図書室協議会等の団体に入会し、積極的に知識を吸収しようとする方も出てきました。

近畿病院図書室協議会が、昨年八月長野におきまして、サマーセミナー2005を開催するにあたり県内67の医学系大学、病院に図書室の設置、業務等のアンケートを出しましたところ2大学、12病院からの解答をいただきました。回答率は21%でした。病院では200以上の公立、公的病院で、飯田市立病院、県立昭和伊南病院、伊那中央病院、諏訪中央病院、諏訪日赤病院、佐久総合病院、県立こども病院、安曇赤十字病院、長野中央病院、飯山赤十字病院、長野赤十字病院と、大学では、信州大学、県立看護大学でした。それらの病院図書室は、兼務か専任の方がいました。専任といっても実質は兼任でした。これらの病院、大学がサマーセミナーを契機に長野県内の医学図書ネットワーク発足に向け動き始め昨年12月に発足しました。

ネットワークを作ることにより、情報交換の場が作られ、問題がおきた時は電話等で直に問い合わせが出来るようになりました。また雑誌、図書等の価格情報も交換し、前年より価格を下げてくださいたり、維持することが出来るようになり、価格の決定が業者と交渉できるようになりました。

県内での文献の相互貸借も活発となり、信州大学におきましては、ネットワーク参加者の施設に対しては、料金後払いで、文献入手も2週間から2日へと短縮され、大学の契約されている電子ジャーナル12000タイトルも依頼し、あれば即刻送付いただけるようになりました。文献入手においても便利になりました。

研修会も年二回の予定で開かれるようになり顔の見えるネットワークに、困った時は相談し会える仲間、スキルアップの場にしていきたいと思えます。